

譽田勘解由左衛門尉

康俊 在判

岩藏

有遍沙門 參

(譽田康俊が岩倉寺に寄進せることは、永祿元年十月の條にも見えたり。)

十二月七日。能登守護畠山義綱の奉行人等、鹿島郡永光寺に、同寺領羽咋郡志指見村年貢直納のことを報す。

【永光寺文書】鹿島郡

一四二九

永光寺領志指見散在分作職、任先例志指見村次郎左衛門ニ申付候間、從來年壬戌之秋可有御直納候。定御年貢之儀、爲領主代官其繕有間敷候。但定年貢之内一粒も未進仕候者、散在分之作職田畠屋敷共ニ永代被召放、寺家之可爲御支配候。幸兩御奉行御證人仁御成候上者、領主之繕有間敷候。仍爲後日之證狀如件。

永祿四年辛酉十二月七日

馬淵彦三郎 綱重 在判

井上次郎右衛門尉 英教 在判

永光寺 參

長參河守 連理 在判

【永光寺文書】

一四三〇

永光寺領散在分年貢米事、志指見村百姓中之以年貢米、辛酉年之年貢卅壹俵壹斗を、五和利之以算用、來年八月申進納可申候。舊未進之儀は、去年庚申之年之未進拾三俵壹斗本分計沙汰可申候。此墨付之俵物は、長參井次右申合、一粒も無不沙汰進納可申候。其上御國一同之御法行候共、其引懸有間敷候。後年之事は百姓・領主与被仰合、如前々可有御直納候。其上は領主・代官之繕有間敷候。可有御直納事專用者候也。

永祿四年辛酉十二月十一日

馬淵彦三郎 綱重 在判

【岩藏寺文書】鳳至郡

井上次郎右衛門 英教 在判

長參河守 連理 在判

永光寺 參

十二月廿三日。鳳至郡粟藏村の吉次、岩藏寺に田地を寄進す。

【岩藏寺文書】鳳至郡

一四三一

粟藏より岩藏へきしんの事

合五十刈者

右此田地、いかやうの事御座候共、相ちがい申間敷候。則田つぼ、をかみのうしろみづおちにて候。毎年(作懸)さくじきの方より、岩藏へおさめ可申候。仍爲後日狀如件。

永祿四年拾二月廿三日

粟藏 吉次 在判

岩藏十國 まいる

永祿五年

壬戌

紀元二二二二

二月廿八日。幕府、山城曼殊院門跡領江沼郡富墓莊代官北野社松梅院禪興をして、年貢未進分等を同門跡雜掌に納めしむ。

【曼殊院文書】山城

一四三二

加州富墓庄上分參拾貫文松梅院禪興近年無沙汰事、次引替拾貫文之儀令倍々過分、以彼公物之内引執之算用狀事、被逐糺明訖。然禪興本役沙汰不存知之、一圓被寄附之旨雖申之、出帶證文不分明。於當門跡者、永正七年御下知至萬松院御代、直務以來度々御成敗、彼先祖禪興一行、禪興名代小畠請文等炳焉之上者、未納之段太無謂。拾貫文借錢者、任古錢一倍法可被辨償。於未進分者、遂算勘可進濟。次數年恣令拘惜爲過怠料、相積公用都合半分可致沙汰旨被成奉書之條、宜令存知給之由所被仰下也。仍執達如件。

永祿五年二月廿八日

(松田盛秀) 對馬守 在判
(松田藤忠) 丹後守

竹内宮御門跡雜掌